

埼玉の山と人を支えて23年

# 木材の地産地消で 家を建てながら 地球をまもる

埼玉県南西部には、江戸の頃から良質な桧「西川材」が育つ山がある。埼玉に拠点を置く高砂建設は、西川材の加工協同組合であるフォレスト西川と手を組み、建材の安定供給を図ることで埼玉の林業を支え、住まい手にとって快適な家を多数提供してきた。同時に家づくりで使用した木材の3倍の木を植林する活動により、「住まいづくりにおける地産地消の循環システム」を23年間機能させ続けている。

## 家を建てながら近くの森をまもるECO

埼玉の地で生まれ育った木で家をつくる。  
埼玉の森の木を伐り、埼玉の森に木を植える。

埼玉の森を伐り、  
埼玉の森に木を植える。

埼玉の地で生まれ育った木  
で家を作る。



植林

住まい手



木材活用

元気な森は、  
CO<sub>2</sub>吸収量も多く、  
CO<sub>2</sub>削減に

大きな手助けとなります…

間伐



伐採

運搬



フォレスト西川

木材の輸送にかかわるCO<sub>2</sub>  
(ウッドマイレージ)削減。

フォレスト西川は大河原木材(株)・町田木材(株)製木建設・  
飯能市広域森林組合が協同で立ち上げた組合です

まずは、私たちの身近な森で、地球温暖化の防止に取り組む事。

高砂建設の理念は「人と地球に優しい家づくり」。

木材を扱う企業として環境への貢献を常に考えていた高砂建設は、

上質な木材、その流通、ひいては地球的な視野に立った改革が必要だと感じていた。

同時に、食の地産地消はあるが、木材の地産地消はあるのか？そんな考えも浮上し始めていた。

一方埼玉県南西部の林業家たちの間では、林業離れによる山の存続危機など、さまざまな問題が生じていた。

彼らは協同組合フォレスト西川を立ち上げ解決を試みたが、西川材の流通は伸び悩み、その安定性は低かった。

高砂建設は社内外のスタッフや取引先などとの大規模な調整を図ることで、

フォレスト西川と手を組み、この循環システムを誕生させたのだ。

## 3つの「まもる」を地元で取り組み、 地球温暖化に手を差し伸べる

# 植える



(植林)

### 健康な山づくりで 自然環境をまもる

木を伐ると同時に木を植えることは、環境の保全へとつながる「森の再生サイクル」。CO<sub>2</sub>を吸って育つ木を毎年増やし続けることで、地球温暖化対策にも貢献。

さらに、住まい手にとって性能と快適性をアップさせる木材の育成にも寄与する。

### 伐採

適切な手入れと伐採を行わないと、木が生え茂り、陽光と風の通りが悪くなる。それにより害虫発生や新しい木が育たなくなり、山が不健康な状態に。適切な伐採は、森を元気にする。

# 作る



(フォレスト西川)

### 埼玉の産業と 生産者をまもる

西川材の伐採から加工までを行うフォレスト西川に年間の安定買取を保証。埼玉の木「西川材」を流通させ、ブランド力を高めることに成功したことで、県内の産業が元気になり、林業従事者の就業場所安定や雇用の拡大、さらなる発展として工場の拡充が図られ、地域活性化となる。それにより、林業家の先祖代々伝わる伝統と知識、資産が守られ、山の環境保全とつながった。

### 運搬

埼玉の森から近隣にある工場で整えられた木材を埼玉の地へ送る経路は、木材輸送における最短ルートを実現。運搬で排出されるCO<sub>2</sub>(ウッドマイルーじ)は、海外から運んだ場合に比べ約1/3に減らす(※)ことができるなど、大幅なCO<sub>2</sub>削減となる。

※40坪程度の住宅1棟をさいたま市内で建設した場合の試算

# 建てる



(木材活用)

### 上質な地場材の家で 住まい手をまもる

埼玉県で育った西川材は、埼玉という風土に建つ住まいに適した建材として、1年間の天然乾燥により「調湿性能」「強度」「防虫」「耐久性」「品質」を最大限に引き出し、長期間持続させる。さらに建材の一本一本の管理をすることができ、誰が切ったどの山の木なのかも把握することが可能になった。

### 住まい手

購入した家に使用した木材の3倍の木を埼玉の山に植える活動に携わり、家を建てながらにして地球をまもるエコ活動に参加できる。



長期優良住宅・先導事業—木造等循環型社会形成部門—

提案名「彩樹の家-2011」～森と住まい手を結ぶ地域循環型ネットワーク～

優れた提案・技術を民間に広く普及させることを目的とした国のリーディングプロジェクト国土交通省所管「長期優良住宅先導事業」において、たかさごの家づくりが工務店で日本唯一の3年連続採択されました。

 **高砂建設**